

◀寄書▶

日光イロハ坂の交通安全度

正員 安東 功*

学会秋のエキスカッション(11月11, 12日)に参加し、五十里ダム、日光舗装道路、中禅寺湖の総合開発等を見学したが、見学場所が盛沢山で、2日間にはなかなか見きれないほどであった。そのなかで私の難解と思われた点は、五十里ダムの一つの小さな洪水抜き(Conduit)、日光杉並木の中を通さないで並行した舗装道路、有料道路イロハ坂の駒止工、中禅寺湖の漏水調査や東照宮の眠り猫等々であった。

いまイロハ坂の駒止工について思いつきを述べてみよう。脱線防止に関し、鉄道のガードレールと道路の駒止工とは、その働きは同一であつても性質は異なる。前者は単に機械的であるが後者はそのほかに人間の心理作用が支配している。事故について不思議な例であるが、東京のある専用道路(曲線半径 200 m、盛土の両側法)で自動車(時速 90 km)は必ずガープの内側の駒止柵を打ち破つて法下に転落している。また昔から木柵橋で、高欄の代りに地覆木と猿子木を使用しているが馬車はあつたに河に落ちこまない。

イロハ坂の駒止工は鉄筋柱を特別の基礎の上に1.20 mの間隔で植え込み、これにパイプを通した体裁もよく、岩乗なものである。だが、時速 90 km のトラックとすれ違った場合、双方ともなお安全であろうか?

* 攻玉社短期大学教授

そこで駒止工法として提唱したいのは、イロハ坂とは限らず一般に、米国のように鉄板の連続壁は経費の都合上不可能とすれば、地覆、猿子木式のガード・コンクリート工法とし、特に運転する者の心理に訴え単なる標識的のものとする工法である。

日本人も外人も心理作用には、それほど差違はないであろうが、運転に関しては日本人は確かに器用である。イロハ坂ではいままでも一度も事故が無かつたそうであるが、これは千じんの谷が一目瞭然でいかにも危なそうに見えるから、そろそろ運転するためであろう。特に今回のバスはゆつくりであつた。雲仙を縦走する県道で、ヘアピンカーブの連続を夜間、相当の速さで突破されたのにはひやひやした。ここはうつそうたる樹木が繁茂してるから、外見上あまり危険を感じないのであろう。ある米人が、ここをジープで運転中谷に転落、アバックの2人は木にひつかかつて助かり、ジープは谷底まで、という難所もあつた。駒止工法は工学的だけでなく、心理的にも考慮すべきではなからうか。去る 10 月 29 日広島大学(日本応用心理学会研究発表会)で「陸運の交通安全」なる題目でシンポジウムがあり、これを聞いたが、事故を未然に防ぐ方法が主として論議されていた。

海岸工学 II

米国技術財団波浪研究会議編

翻訳担当者: 石原藤次郎、太田尾広治、佐藤清一

土木学会海岸工学委員会訳

田中 清、永井荘七郎、新妻幸雄、本間 仁

(五十音順)

750

カリフォルニア大学内の波浪研究会議(Council of Wave Research)が鋭意研究した成果を翻訳編集したユニークな書で、主として海岸工学の理論的究明をなした第I巻につづきこの第II巻ではそれと実際問題との結びつき並びに将来に対する見通しについて有益な資料を提供している。

II-A 5判 430頁 定価 1500円

【主要内容】 ☆海岸調査のための基礎知識 ☆海岸土砂の問題 ☆地点基準 ☆海岸工事の設計 ☆海洋学上の基礎知識 ☆海岸工事の設計 ☆海岸構造物の寿命に影響する要素 ☆海岸計画の沿革

750

海岸工学 I 286頁 定価 500円

【主要内容】 ☆波運動の基本原理解 ☆基礎設計資料 ☆海岸土砂の問題 ☆海岸構造物の位置の基準と設計及び施工 ☆各地における海岸計画の沿革

好評改訂第3版

土木設計便覧

土木設計便覧編集委員会編
B 6判 1,402頁 定価 1,600円

コンクリートダム

クレーガー他著・村 幸雄訳
A 5判 396頁 定価 850円

重力ダム

米国内務省開拓局編・近藤泰夫訳
A 5判 254頁 定価 650円

マスコンクリート

米国内務省開拓局編・近藤泰夫訳
A 5判 258頁 定価 550円東京丸善
日本橋